

第6学年国語科学習指導案

指導学級 宮古市立千徳小学校

6年2組 男15名女16名計31名

指導者 八重樫 貴子

指導場所 6年2組教室

研修テーマ 筆者の論述をふまえて読みを深めることができる児童の育成

説明文の中には、一言、一文字の中に筆者が読者に伝えたい思いがこめられている。それを敏感に読み取り、筆者の思いに迫る児童を育成したいと考え、本テーマを設定した。

日常では、自分の思いを意図どおりに相手に伝えることや、相手の話していることを汲み取ることが得意でない児童がおり、人間関係づくりに不安を抱えている児童もいる。読解力を育てることで、人間関係を良好にすることもできると考える。

これまでの単元「生き物はつながりの中に」では、繰り返し語句や題名で使われた語句といった重要語句、接続語に着目させ、筆者の思いに迫る指導をしてきた。

- 1 単元名 筆者の考えを受け止め、自分の考えを伝えよう
「平和のとりでを築く」「自分の考えを発信しよう」
「インターネットと学習」(光村図書 6年下)

2 単元について

(1) 児童の実態

本単元は、学習指導要領「読むこと」内容ウ「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすること。」を受けて設定した。

児童は、これまで説明文教材を読み取る学習において、筆者の主張は文章の中に内包されていることを学習した。しかし、要旨をとらえようと意識はしているものの、筆者の意見と事実を混同して読んでいるために、要旨をとらえることができない児童がいる。また、日常生活では、自分の思いを意図どおりに相手に伝えることや、相手の話していることを汲み取ることが得意ではない児童も多い。そこで、重要語句や接続語に着目させ、内容や要旨を正確にとらえることができるように、自分の考えをまとめさせたい。

(2) 教材について

本単元は、説明文「平和のとりでを築く」を読み取る活動と「自分の考えを発信しよう」という自分の考えを表現する活動で構成している。

まず、「平和のとりでを築く」は、原子爆弾によって「傷だらけ」となった物産陳列館が、多くの人々の平和を願う心によって、世界遺産「原爆ドーム」となった経緯と“世界”の“遺産”となった意味についての筆者の考えを述べている。次に、筆者の願いである「平和」の希求について「自分の考えを発信しよう」で自分の考えを述べる。ここでは、「平和」というテーマにかかわるような多様な材料を集め、自分なりの考えをもち、発信していく学習をしていく。このように、さまざまな材料を集め、それに学ぶだけでなく、それを基に自分なりの考えを深め、外部に発信することで、筆者の考えを基に自分の考えを広げることにつながる。

(3) 指導にあたって

本単元は、「つかむ」「たしかめる」「ひろげる」の三つの段階に分けて、次のように指導する。

まず、「つかむ」段階では、戦争や平和について児童が知っていることや思っていることを出し合わせ、教材文に興味をもたせる。

次に、「たしかめる」段階では、原爆ドームにまつわる事実を確認しながら、原爆ドームを通し

て、筆者の戦争や核兵器使用を二度と繰り返してはならないという強い思いをとらえさせる。

そして、「ひろげる」段階では、「たしかめる」段階で自分が感じたこと、考えたことを基にしながら、「平和」に対する自分の意見をまとめていく。その際、さまざまな材料を集め、それに学ぶだけでなく、それを基に自分なりの考えを深め、その考えを外部に発信することで表現能力を高めていきたい。

3 単元の目標

- (1) 筆者の考えを受けて、「平和」について関心をもって読んだり自分の考えを話し合ったり、書いたりしようとする。 (国語への関心・意欲・態度)
- (2) 自分の考えをわかりやすくするために、必要な材料を選び、整理して全体の組み立てを考えて書いている。 (書くこと)
- (3) 文章の内容を的確に押さえながら要旨をとらえ、自分はどのように考えるかを明確にしながら読むことができる。 (読むこと)
- (4) 考えをわかりやすくするための文章の構成を考え、自分の表現に使うことができる。 (言語についての知識・理解・技能)

4 学習指導計画 (全 14 時間)

段階	時	学習内容
つかむ	1	・単元名、題名、リード文から学習の見通しをもつ。 ・戦争や平和に関して知っていることや、思っていることを出し合う。
	2	・「平和のとりでを築く」で、筆者は何を伝えたいのかという共通の課題をとらえる。
たしかめる	3	・形式段落②～⑧を読み取る。 ・原爆ドームのたどった歴史と人々の思いを中心に自分の感じたこと、考えたことをまとめる。
	4	・形式段落⑨～⑪を読み取る。 ・原爆ドームが世界遺産となったのはなぜかを中心に、自分の感じたこと、考えたことをまとめる。
	5 本時	・形式段落⑫⑬を読み取る。 ・筆者の伝えたいことを読み取る。
	6	・要約し、自分の考えを発表し合う。
ひろげる	7	・考えを発信するために、計画を立て、見通しを持つ。
	8	
	9	・自分の意見に説得力を持たせる工夫をし、文章の構成を考える。
	10	
	11	・自分の考えを書き、推敲する。
	12	
	13	・「平和」に対する自分の考えを作文で発信する。
14	・自分の取り組みを振り返る。	

5 本時の指導 (5 / 14)

(1) 目標

原爆ドームを通して、戦争や核兵器使用を二度と繰り返さない筆者の思いを読み取ることができる。 (読むこと)

(2) 本時の目標を達成するための手立て

筆者の思いを表しているユネスコ憲章の言葉について読み取らせ、考えさせる。また、「世界遺

産」と「世界の遺産」の違いを考えさせる。これらを通して、戦争は自分の生活には遠いものではなく、自分の心の中で簡単に生まれてしまうものであり、戦争は世界中の人々に関わるものだと読み取ることができるだろう。

(3) 展 開 (太字ゴシック体は手立てにかかわる部分)

階	学習活動	指導上の留意点
導入 5分	1 前時の学習を振り返る ・「原爆ドーム」となぜ呼ばれているのでしょうか。 ・なぜ原爆ドームは、世界遺産になったのでしょうか。 2 本時の課題を確認する <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 原爆ドームを通して伝えたい筆者の思いを読み取ろう。 </div>	・「原爆ドーム」と呼ばれる理由、原爆ドームが世界遺産になった理由を振り返らせる。 ・原爆ドームを通して伝えたい筆者の思いを読み取ることを確認する。
展開 37分	3 形式段落⑫⑬を音読する (P37L13～P38L9) 4 見つけた語句にサイドラインを引く 5 語句を発表し、話し合う ・「核兵器」を別の言葉で何と申すでしょう。 ・「警告する記念碑」とは何のことですか。 ・大牟田さんはなぜユネスコ憲章の言葉を使っているのでしょうか。 ○「戦争は人の心の中で生まれる」とはどういうことでしょうか。 ○「心の中に平和のとりでを築く」とは、どのようなことなのでしょう。	・号車読みと指名読みで音読させる。 ・重要語句(題名・繰り返し語句)を探しながら読ませる。 ・予想される重要語句 「原爆ドーム」「核兵器」 「人の心」「平和のとりで」 ・「核兵器」と「原子爆弾」は同意語と確認する。 ・核兵器は、「二度と使ってはいけない」よりも、「不必要だ」と筆者が強調していることを確認する。 ・「警告する」ことには、「注意する」気持ちよりも強い思いがあることを確認する。 ・原爆ドームが記念碑と表されていることを確認する。 ・ユネスコ憲章には、筆者の思いが表れていることを確認し、ノートに視写をさせる。 ・「心の中」で「生まれる」とはどういうことかを確認する。 ・「戦争は生まれる」とは、人が誰でも抱えている「利益」「欲望」などの自分勝手な感情で戦争が起こることを話し合わせる。 ・「とりで」の意味を再確認する。 ・戦争を起こさないためには、自分の弱い心に打ち

	う。 ○原爆ドームが「世界の遺産」とはどのようなことでしょうか。 5 まとめる ○大牟田さんが原爆ドームを通して伝えたかったことは何でしょうか。 6 考えをもつ	<p>勝つ強い意志や、平和を願う強い思いが必要であることについて話し合わせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「世界遺産」と「世界の遺産」の違いを確認し、「世界の」にはどのような意味が含まれているか話し合わせる。 ・原爆ドームは、日本だけでなく世界中の人々にとって、必要な遺産であることを確認する。 ・「原爆ドームは、」と書き出しを統一させる。
終末 3分	7 次時の学習内容を確認する	<ul style="list-style-type: none"> ・原爆ドームは、平和を強く願う世界中の人々の心を表している。 ・原爆ドームは、人々の心に憎しみを生み出さないよう、平和の心を強く願うように表している建物である。 ・本時で考えた「戦争」「平和」について、自分の生活をふり返らせながら考えをまとめさせる。
		・次時は、筆者の思いに対する自分の考えをまとめていくことを確認する。

(4) 具体の評価規準

観点	十分満足できる	概ね満足できる	努力を要する児童への支援
読むこと	原爆ドームを通して伝えたかった筆者の考えを具体的な言葉でまとめている。 (ノート・発表)	原爆ドームを通して伝えたかった筆者の考えについて教科書に出てくる言葉を使ってまとめている。 (ノート・発表)	板書を見たり友達の発表を聞いたりして、筆者の考えをまとめるようにさせる。

(5) 板書計画



